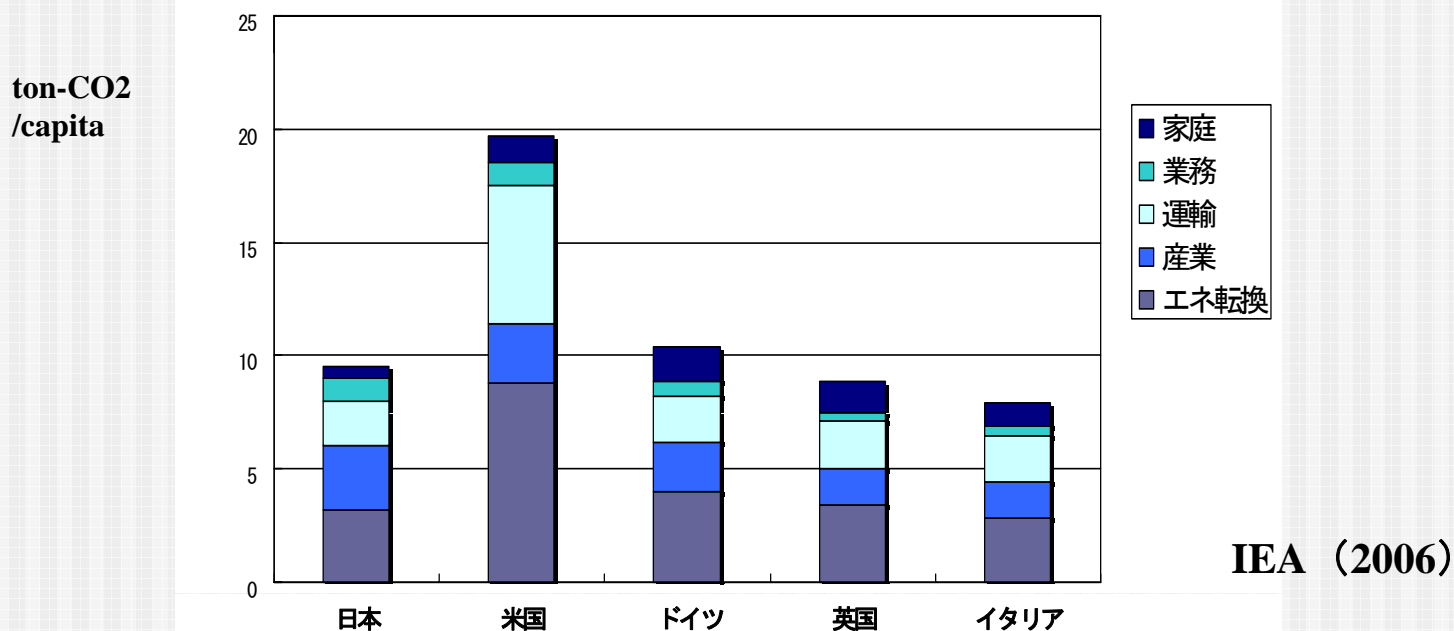


日本のエネルギー転換・産業部門全体は必ずしも「優等生」ではなし

一人当たりエネルギー消費部門別内訳の国際比較



- エネルギー転換・産業部門の割合（％）：
日本（63）＞米（58）、ドイツ（60）、英国（56）、イタリア（56）
- 家庭部門の絶対量（ton-CO₂/capita）：
日本（0.5）＜米（1.2）、ドイツ（1.5）、英国（1.4）、イタリア（1）

1. 早急かつ大幅な総量削減（規制）の必要性

2. 現行のC&Tの評価

3. C&Tと自主行動計画との比較

4. まとめ